

会 議 録

会 議 名	第2回 淡路人形浄瑠璃保存伝承検討委員会	
開 催 日 時	令和4年8月22日（月）午後2時00分～午後3時45分	
開 催 場 所	南あわじ市役所第2別館 第5会議室	
出席者	委 員	森 紘一、寺内 直子、徳永 高志、島田 貞洋、赤穂 秀樹、 山崎 大樹、木下 紘二、諏訪 芳美
	事 務 局	仲山 和史 （教育委員会次長） 谷口 信介 （公認会計士） 福田 龍八 （淡路人形座統括責任者） 阿萬野 真司 （社会教育課長） 眞野 匡史 （社会教育課係長）
	オブザーバー	四元 俊英 （検討委員会 顧問） 正井 良徳、上居 宏次、福原 敬二 （淡路人形協会）
会 議 次 第	<p>1. 開 会</p> <p>2. 議 事 （1）淡路人形座に期待される役割と必要な基本的条件</p> <p>3. 閉 会</p>	
議 事 要 旨	別紙のとおり	

淡路人形浄瑠璃保存伝承検討委員会 議事要旨

○ 議 事

(1) 淡路人形座に期待される役割と必要な基本的条件

○ 具体的な方法について検討いただき、各委員から意見を聴く（要旨）

【①財政的な支援】

- ・ 入場料収入を増やすことが最優先である。
- ・ 文化芸術は、寄附や補助金無しではやっていけない。
- ・ 目玉となる公演を何回か入れることで、集客力を上げる。また、企業に対して薄く広く支援を募る。
- ・ 経常収支のマイナスを入場料収入でカバーできれば、市の補助金を人形座以外に他の文化にも投資できる。
- ・ 会費や寄付金による運営の難しさとお金を集めてくる作業の大変さを痛感しており、企業等の資金協力は容易でない。
- ・ 企業から寄附や協賛金を募る仕事をやってきたが、これは本当に大変な仕事である。

【②人的な支援】

- ・ 今、人形座に来ていない客層や淡路島に来る宿泊者へのアプローチ、初めて淡路島を訪れる人への旅前の情報発信、インバウンドや大阪万博に向けたPRが重要であり、ノウハウのある人材が必要である。
- ・ 技芸を理解している営業職を雇うことは非常に難しい。
- ・ 経営面をプロデュースする者とコンテンツをプロデュースする者が必要である。
- ・ 淡路の歴史と観光をよく理解している自前のプロデューサーが必要であるが、そのような人材が居ないため、その周辺で当てはまる人を配置し、その人を中心にやっていくのはどうか。
- ・ グローバルな経営感覚を持ち、且つ自前の人材が必要である。
- ・ 外部から人材を投入するよりは、内部から人材を育てていくことが望まれる。そのため、アートマネジメントの会社等へ研修に行く方法も考えられる。
- ・ 淡路の伝統芸能に関わっている人、自前の人材が企画することが重要である。
- ・ 適材適所の人員配置により改善される面はある。
- ・ 企業から寄附や協賛金を募る役割を安易にアウトソーシングせず、自前のスタッフを組織内に位置付ける必要がある。

【③新たな組織体制】

- ・淡路人形座は劇団と劇場の両方を持っている特殊な組織である。
- ・事業利益を投入する企業の覚悟が必要である。
- ・劇団と劇場を分け、フランチャイズ契約を交わして運営していくことが望ましい。
- ・市が民間企業に財政的支援が行えるかどうか。
- ・企業協賛金や公的資金を万遍なく集めていく資金調達を専門とする部門が必要である。

【その他】

- ・公共の劇場運営において、どういうふうに変えても公的なお金が入る劇場の性格は根本的に変わらない。
- ・「芸術性」「経済性」「公益性」の3つの「ものさし」で常に物事を考え、意思決定を行い、説明責任を負わなければならない。